

2026年度

Peach Women's Business School

第4回

登壇者：帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 教授

Link Next 社会研究所 代表理事

飛河 智生 氏

講演テーマ：「キャリアデザイン」

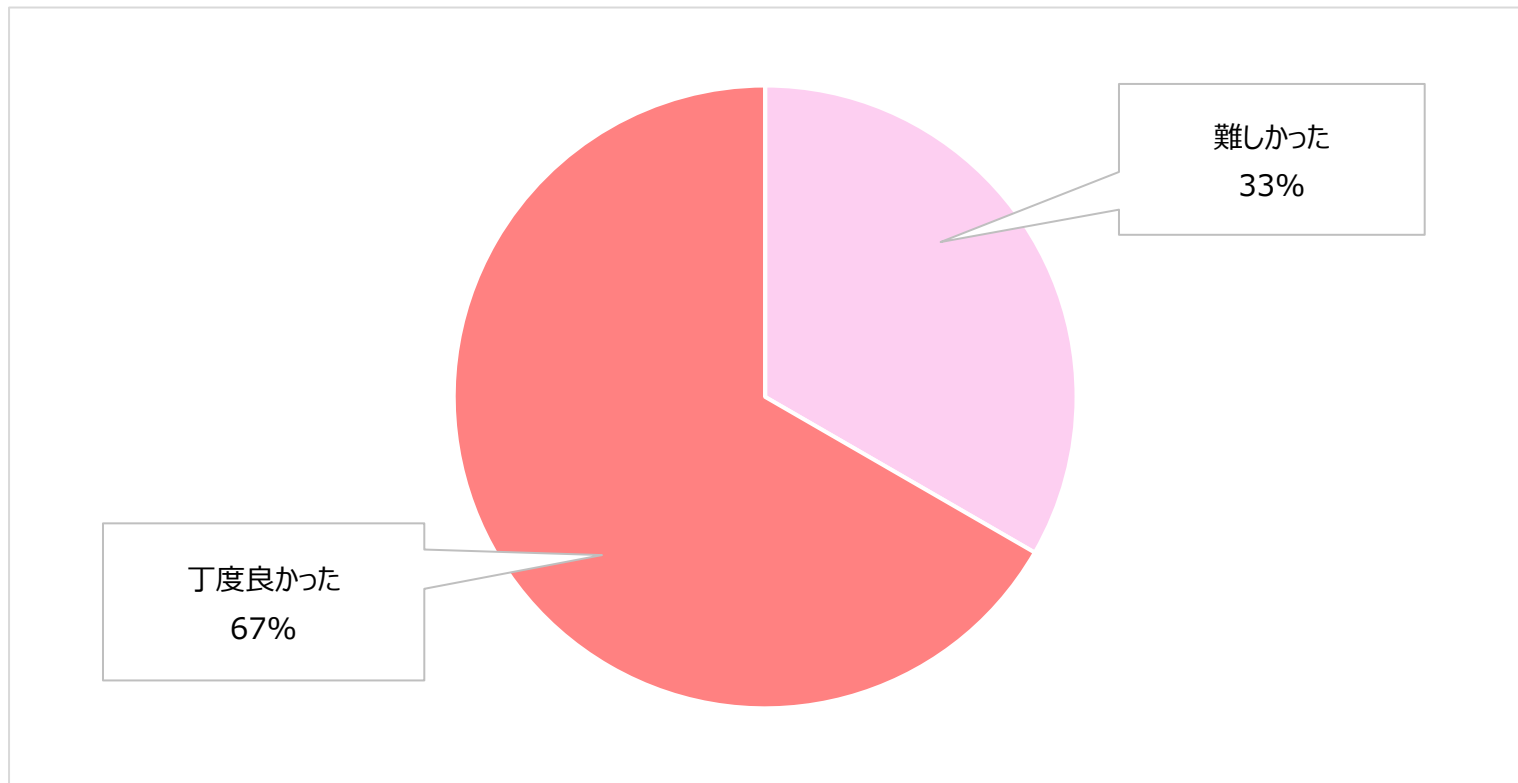
2026年度PWBS 第4回アンケート集計結果

研 修 日 : 2026年8月6日(木)

登 壇 者 : 帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 教授、Link Next 社会研究所 代表理事 飛河 智生 氏

講演テーマ : 「キャリアデザイン」

(1) 今回の研修の難易度はいかがでしたか。【大変難しかった、難しかった、丁度良かった、易しかった】



(2)研修を受講して役立った事、新たに知った事、もっと学びたい事は何ですか。

キャリアについて改めて理解を深めることができた。キャリアとは「Wii」「Must」「Can」の重なり合う場所。どこから始めてもいいということ。いつも「Will」から考えてしまい、自分は何になりたいかよくわからず答えがでなかったが、「Can」から考えることで自分にできることから始めようと思った。また、「夢」はなくても大丈夫、社会にある解決すべき小さな課題を見つけ、この積み重ねがやがて夢となる。という言葉は、いま自分にできることから踏みだせばよいと解釈できた。これからは、ワークライフソーシャルバランスとして、自分が社会と仕事と対等に並んでおり、社会に貢献するために仕事を使うもしくは直接社会と接するなど、仕事も自分のやりたいことの手段として活用するという考えに自分がまとまった。

キャリアについて具体的に考えるお言葉をたくさんいただき、有意義な時間となりました。

キャリアを会社の中だけでなく、社会とのつながりの中で考えることの大切さを学びました。特に、自分が社会にどのような価値を提供したいのかを考える視点が印象に残りました。今後は、自分の専門性を活かしながら社会にどのような価値を提供できるのか、キャリアとライフイベントを両立しながら成長していくための具体的なキャリア形成についても学びを深めたいと考えています。

今回の研修を受講し、人生を15年スケールで考えるという視点が新しい発見であり、とても面白いと思いました。今は目の前の忙しさと共に毎日駆け抜けていますが、もう少し大きな視点で元気で過ごせる自分に残された時間も意識しながら過ごしていきたいと思いました。

また「ブランド・ハプスタンス」についても、今回とても印象に残りました。自分が大学生の頃聞いた講演の中で、講演者の座右の銘が「No Attack No Chance（ノーアタック・ノーチャンス）」とおっしゃっており、その言葉が気に入って、私自身の新入社員時代のモットーとしておりました。今回、偶然をチャンスに変えるキーワードを具体的に教えていただくことで理解が深まり、また自分の新入社員の頃の想いを改めて思い出すことができたことが嬉しかったです。

人生の体感時間について、以前から何となく考えていたことが表で分かりやすく示されており、自分が人生の真ん中を迎えようとしていることに改めて焦りを感じました。これまでキャリアプランを具体的に考えたことがなかったため、今回いただいた表を参考にしながら、今後の働き方や目標について整理していきたいと思います。

時の流れに対する実感が年齢を経るごとに早くなるという先生の計算は、全くその通りだろうと納得していますが、それを改めて説明されると大変焦りを感じました。しかしこれを自身への追い込みのきっかけと考え、もう少し実績を積み上げて行こうと思います。今我々は、情報化やAI利用など、ものすごく変化の激しい時代を生きているようなので、その時代に生きるスキルは必要ですし、地政学や経済知識、哲学などを理解して、AIに使われない、問いを立てる側のセンスを養いたいです。

異分野への異動や転職においても、これまでの経験や知見を活かすことで、自身ならではの価値を発揮できるというお話が特に印象に残った。ちょうど自身のキャリアについて悩んでいた時期でもあり、これまでの経験を前向きに捉えるきっかけとなるなど、大変参考になった。

都度自身のキャリアを棚卸しし、現在の自分の地点を把握することが必要であると学んだ。

キャリア・アンカーの3要素（Will・Can・Must）について、どこから取り組み始めても良いという考え方が印象的でした。思いついたところから手をつけ、それぞれの円を少しずつ広げていくことで、自然と重なりが生まれていくのだと理解しました。

また、「計画的偶発性理論（ブランド・ハプスタンス）」については、まさに自分自身の生き方そのものだと感じました。常に好奇心を持ち、失敗を恐れず経験として受け止め、想定外の場面でも柔軟に対応しながら、まずは楽しんでやってみる。そうした姿勢を持ち続けることで、思いがけないチャンスが自分のもとに巡ってくることを、実体験として感じています。だからこそ、この理論をもっと多くの人に知ってほしいと思いました。

「夢はなくても大丈夫」という言葉にも励まされました。「夢は何ですか」と問われると答えに困ることは多いですが、目の前にある「やりたいこと」「やってみたいこと」を一つひとつ積み重ねていくことで、いつか大きな夢につながっていくのだと、前向きに捉えられるようになりました。

今回の研修で印象に残ったのは、国が「ジョブ型人事指針」を公表されていることです。これまでのように会社から与えられた仕事をこなすだけではなく、一人ひとりが主体的にキャリアを形成していく時代へと変化していることを理解できました。

「ワーク・ライフ・バランス」から「ワーク・ライフ・ソーシャル・バランス」へと考え方がシフトしているという点も、新たな気づきでした。まず自分が社会に対して何を実現したいのかを考え、その上で自分に合った会社や環境を選択するという視点は、全く意識していなかった考え方でした。会社と社会、自分と社会とのつながりを意識することで、自身の働く意義について改めて考えるきっかけとなりました。

さらに、キャリアの定義についても大きな学びがありました。今回の研修を通じて「キャリア＝仕事」ではなく、「キャリア＝役割（仕事、私生活等さまざまな場面での役割）」という考え方を知ることができたので、自分らしい役割とは何か、どのような形で社会に価値を提供できるのかについて、考えていきたいと思います。

「夢がなくてもキャリアは形成できる」という考え方です。これまでは明確な目標や夢を持つことが重要であり、そういう問いに対して明確に答えられない自分に不安を感じていましたが、講義では「やりたいことは見つけるものではなく、動いた先に生まれるもの」であり、偶然の出会いや経験をチャンスとして活かしながらキャリアを形成していくことができると学びました。

今回の研修では、キャリアを長い人生の時間軸で考えることができたことが印象に残りました。これまで、子どもの頃から明確な夢を持っていたわけではありませんが、振り返ってみると、その時々で経験を重ね、成長してきたからこそ、今は仕事にやりがいを感じることができているのだと気づきました。

また、「自分自身の人材育成」「会社での人材育成」「社会での人材育成」という考え方を知り、自分自身の成長だけでなく、会社や社会に対してどのような形で関わっていくのかを考えるきっかけになりました。特に、これまであまり考えてこなかった「社会での人材育成」については、今後もう少し考えてみたいと思います。

時間の経過基準については非常に納得感を覚えたのと同時に、そろそろ感覚年齢では折り返し地点に立っているという自覚を持ち、自分自身のキャリア、プライベートについて後悔のないように決断していきたいと思いました。

思っているよりも人生短いということ。キャリアといっても仕事だけではないということ

今と昔の雇用形態・キャリア形成の仕方が大きく変わってきていることを知れたのが有意義でした。

企業と個人の関係について、「会社として社会に与える付加価値と個人が社会に与える付加価値を分けて考え、個人は自分が社会に与えたい価値を実現できる会社を選ぶべき」という考えは私にはなかったため、新たな学びとなりました。

これまで、「自分が働く会社は社会にどのような価値を与えられるか」「自分はこの会社にどう貢献するか」ということは考えてきましたが、「個人として社会にどのような価値を与えたいか」ということは考えたことがありませんでした。

そもそも社会貢献は会社を通して行えばよいと考えていましたが、生成AI時代への移行が進み、個の強みを高めていかなければならない時代において、「個人として社会に何ができるか」という視点を持つ重要性を痛感しました。

キャリアと聞くと仕事でどうありたいかのキャリアと考えがちだが、ライフプラン*やりたいこと*できること*役割と複合的に考える視点は大変勉強になりました。実践していきたいと思います。

28歳が人生の折り返し地点、ワーク・ライフ・ソーシャル・バランス

今回の研修を通じて、自分の人生やキャリアについて改めて考える機会を得ることができました。以前から、自分の人生は思っている以上に短いのではないかと漠然と感じていましたが、研修を受講したことで、そのことをより現実的なものとして捉えることができました。

また、これまでも様々なキャリア研修を受講してきましたが、「キャリア＝会社の中での仕事や役割」といったイメージから抜け出せずにいました。しかし今回の研修では、会社に在籍している期間だけではなく、生涯を通じてどのように社会へ貢献していきたいのかという視点で、自身のキャリアを考えることの重要性を学びました。すぐに答えが出るものではありませんが、将来のありたい姿を見据えながら、今何をすべきかを考え続けることが必要であると感じました。

私が今回の研修で最も印象に残ったのは、「夢は持っていた方が良いが、なくても焦る必要はないし問題ない」という言葉です。これまで私は、明確な夢や目標を持っていない自分を否定的に捉えていましたが、その考え方が少し和らぎました。

また、これまでは「やりたいこと（WILL）」や「できること（CAN）」からキャリアを考えることが正しいと思っていましたが、「やるべきこと（MUST）」や目の前の課題解決に真摯に取り組むことも、将来のキャリア形成につながるということは大きな気づきでした。日々の業務の中で経験や知識を積み重ねることで、自分らしいキャリアの方向性が見えてくると信じ、今後も前向きに業務に取り組んでいきたいと思っています。

（3）今後、具体的に自分の行動をどう変えていきたいですか。

今後、まず自分の人間性や経験してきたことを棚卸し、その上で自分の「Will」「Must」「Can」を書き出し、真ん中に重なるキャリアを導きだすことから考えたい。次にまずは動いて様々な出会いや経験を通し、偶然をチャンスに変えていきたいと思っています。

具体的には、今後も社内研修や社内企画にも積極的にエントリーし、社内での出会いや経験を増やし現在の業務以外の人間関係を構築していきたい。

その上で、やりたいことや経験を振り返り今後のキャリアと照らし合わせて自分の将来を誘導していきたいと考えます。

今後は、自分の強みや知識を活かしながら、社内だけでなく社外の人との交流や学びの機会にも積極的に参加したいと思っています。

キャリアリスクマネジメント素養の3分野 6 要素を基に、まずは自分事として各項目にごとに、「なぜそう思うのか」等、自問自答を繰り返しながら落とし込みを行い、漠然と考えていることを具体化する作業を実践したいと思います。 また、日々の業務の中で与えられた課題を解決するだけでなく、「そもそも何が課題なのか」「本当に解決すべきことは何か」という問いを立てることを意識して行動していきたいです。 社会環境や働き方が大きく変化する中で、変化を前向きに受け止めながら学び続け、自分自身の強みや価値を高めながらしなやかに生きていければと思います。
「自分が社会に対して何をしたいのか」ということをこれまで具体的に考えたことがありませんでしたが、今回の講義を通じて、まずは身近なところから社会との関わりを持ち、できることから行動していきたいと感じました。
「社会へ無償でする行動を何かしていますか？していなければやってください」、と仰った先生の言葉が今回の講義の中で印象に残っています。社会への貢献、自分と他者の人材育成、Give and Giveを考えの指針に加えることが必要というのが一番の感想です。まずは自分の周囲の困っている人への手助けからでもいい、何かを渡す、または支えるという行動を起こし、同時に必要な時に渡せる知識・経験を増やす積極性を持つことが課題であると思っています。
今後は、これまでの経験を活かした自身ならではの強みや付加価値を改めて見つめ直し、それを業務にどのように活かせるかを意識しながら取り組んでいきたい。
キャリアの足跡を振り返ることで、現在の部署で自分だけがしているであろう経験を思い出すきっかけとなった。そのような過去の経験を活かして自分にしかできないアウトプットをしていきたい。
直近の経験も含め、自分ストーリーを見直します。成功だけでなく失敗も含めた経験を、自分の言葉で人に話せるようになることが、自信につながると感じています。 現在もボランティア活動などを通じて社会とのつながりを持っていますが、今後も会社に依存しすぎない生き方を意識し、社外での経験や学びを大切にしていきたいと思います。 そして、社会で得た経験や知見を、会社の業務や周囲の人材育成にも積極的に還元していきたいと考えています。
私の会社では近年、人的資本への投資やエンゲージメント向上に向けた取り組みが進められており、多様な働き方やキャリア形成を支援する環境が整いつつあります。今後は、そのような制度や仕組みを積極的に活用しながら、自分らしい役割を発揮できる環境で働くことを意識しています。 そのためにも、まずは自分自身が社会や会社に対してどのような役割を果たしたいのかを明確にすることから始めてみたいと思います。

今後は、人生は意外と短いということを意識しながら、「どのような課題があるのか」「自分はどのような価値を提供できるのか」を問い続ける癖をつけたいと思います。また、会社以外での自分自身のストーリーを育てるためにも、人的ネットワークを広げ、多様な価値観や考え方に触れる機会を増やししながら、自身の強みや社会に提供できる価値を見つけていきたいです。

現在の自分は、転職を経験し、異業種で新たな仕事に挑戦している「第2ステージ」にいると考えています。このステージをただ仕事をする期間とするのではなく、これまでとは違う経験や人とのつながりを増やしていきたいと思います。

具体的には、社内外を問わずさまざまな人とのネットワークを意識して作ってきたいです。また、これまでの経験や現在の仕事での経験を振り返り、自分がどのような経験をして、何を考え、どのように成長してきたのかという「自分のストーリー」も少しずつ整理してみたいと思います。

まさに自分のキャリアプランに悩んでいるところでした。自分が将来どんな分野のエキスパートになりたいのか、どんなことで会社や社会の貢献したいのかをもう1度就活の時のように整理したいと思っておりましたので、研修で学んだ「解決すべき小さな課題」やキャリアアンカーの3要素に目を向けつつ、いただいたキャリアシートを用いて自分と向き合ってみたいと思います。

とにかく何かしら行動していく。自分が知っていることは惜しみなく人に教えていく

専門性の高い業務をしている為、研修や同業他社様との交流等を通して知識を補完・深めて、自らの価値を上げていこう努めようと思います。

今後は「この会社で何をするか」とどまらず、「個人としてどのような価値を提供したいのか」を明確にし、その実現に向けて自身のスキルや強みを磨くことで、個人の成長を会社の発展や社会への価値提供へとつなげていきたいと考えております。
講義の中で「個人のキャリアの8割は予想しない偶発的なことによって決定される」とお話がありましたが、そうした偶然の出来事の中で生まれるチャンスを確実に捉えるためにも、継続的なスキルアップが不可欠であると思いました。
また、ビジネスにおけるネットワークについて、「弱い紐帯」による人間関係がキャリアに生きてくるというお話がありましたが、PWBSの研修でも毎回参加者の方から新たな気づきを与えてもらっているため、幅広い業界、年代の方との交流を大切にしていきたいと思います。

2つ上の役職者が何を考えているか、どう物事をみているか、それを考えることが大事。この考える訓練は実践していきます。

キャリア形成というと自分の内面と向き合いつつ、いかに経験・知識を得ていくかということに主眼を置きがちだったが、今回の研修を通して自分の内だけでなく外に目を向け行動を起こし、また社会に対して自分が何を提供できるかということを考え続けることが大事だと学んだので、今後はその点を意識して行動していきたいです。

今回の研修は限られた時間での学びであり、今回のテーマをもっと深掘りしたいと思いました。今後は、キャリアデザインに関する知識を身に付けるとともに、様々な人と関わり、多様な考え方や価値観に触れながら、自分はどのように社会へ貢献したいのか、自分らしいキャリアとは何かを考え続けていきたいと思います。